

女性のためのハッピーキャリアセミナー**たとえ未経験の分野であったとしても始めるのに遅すぎることはない！****河原幸江さん**

米国公認会計士試験合格者

専業主婦を経験し、簿記2級取得後、5年のブランクを経て社会復帰。更なる飛躍を目指して、米国公認会計士試験に挑戦。全科目初回受験で合格後、2009年大手一般企業の管理職としてキャリアアップ転職。



去る2010年10月16日（土）TAC新宿校で行われた「女性のためのハッピーキャリアアップセミナー」女性の力～生きる強さを手に入れたシンデレラたち、で講演していただいた米国公認会計士試験合格者の河原幸江さんのお話をお伝えします。

2008年5月 U.S.CPA 試験に合格し転職を決意

こんにちは。米国公認会計士合格者の河原幸江です。本日は皆様お集まり頂きまして有り難うございます。皆様の貴重なお時間を無駄にしないように頑張ってお話したいと思いますが、このような場は初めてですので進行に何か不都合な点がございましたらお許しいただきたいと思います。これから先は米国公認会計士という名称につきまして、U.S.CPAという表現でお話を進めていきたいと思います。

私は現在大阪に本社を持つ会社の経理部において、管理職のポジションにて勤務をしております。2008年5月にU.S.CPA試験に合格したのをきっかけに転職を決意し、2009年9月より現在の会社で就業を開始いたしました。主な仕事として国内外16カ所に広がる関係会社の月次、四半期、年度の連結決算のとりまとめをしております。

日本における U.S.CPA 資格の需要

最初に U.S.CPA という資格について簡単にお話します。U.S.CPA とは米国の会計基準をベースにした会計士です。会計士の仕事といいますと、主に一般企業の会計監査というイメージが強いと思いますが、日本における U.S.CPA 保持者の仕事としては私のように、一般企業の経理財務の仕事をしている人が結構多いのではないかと思います。どのような企業において U.S.CPA の需要があるのかといいますと、大きくは2つの場があると思います。1つは日本の企業でも海外に上場しているグローバル企業で、日本基準ではなく、US基準を使っている企業での需要、例えばソニーなどが該当します。もう一つは国際会計基準、IFRS といまして、会計基準が国際的に統一されようとする流れがあり、日本でも2014年から始まる決算期におきまして強制適用になるのではないかとされていますが、US基準は明らかにIFRSに近いですし、U.S.CPA は会計を英語で理解出ることが出来る人の代名詞ですから、将来を見据えた企業では今後も U.S.CPA の需要は高まっていくと感じております。

会計とは無縁の生活をしていた私が U.S.CPA 資格の取得を思い立ったきっかけ

次に私が U.S.CPA を取得することになった経緯をお話します。私がこの試験に合格したのは 2008 年 5 月ですからまだ 2 年半しかたっておりません。年齢で申し上げますと 34 歳の時です。その前は専業主婦を 5 年間しており、専業主婦になる前は航空関係の企業で社長秘書をしていましたので U.S.CPA の勉強を始めようと決意する 32 歳まで、会計とは無縁の生活をしておりました。学生時代は英語は大好きでしたが、数学が大嫌いで受験のために嫌々勉強している感じでした。そんな私が今なぜ毎日毎日数字をいじっているのか、振り返ってみると自分でも驚きです。そんな私の人生を大きく変えたのは離婚です。私が大学を卒業したのは 1997 年、当時は就職大氷河期でした。同世代の方もいらっしやるかと思いますが、4 大卒の女子は就職情報誌で会社案内を依頼しても返信も無く、会社説明会に参加すらできないような状況でした。そのような社会の流れの中で英語は好きだけど特別なキャリアプランを立てるわけでもなく、ちょっと華やかな航空業界で気楽に仕事をしようかなと考え、大学を卒業してからは関西空港で働いていました。関空での仕事は毎日飛行機が見える環境で、幸運にも尊敬できる上司との出会いがあり、良い経験をさせていただいたと思っております。数年後には当初の予定通り、結婚相手を見つけて結婚し息子も授かり、家族の希望通り会社を退職しました。このようにして、専業主婦になったわけですが、その後は、本当にいろいろな事があまして、、、これを話し始めると 3 日ぐらいかかってしまうかもしれません。しかし、そちらの方が面白いかもしれませんが、今日はその辺りは割愛させていただきます。息子が 1 歳になる頃には結婚生活は破綻していましたが、仕事もしておりませんでしたし、どうしたらよいものかと 3 年間悶々とした日々を過ごしておりました。離婚することが息子にとってダメージになるかもしれないと思うと怖くてなかなか踏み切れなかったのが本当のところですが、最後には、私自身ちょっとおかしくなるのではないかと思うようになり、ある時 4 歳の息子を連れて家を出て実家に戻りました。それが 2005 年秋です。その後調停、裁判で 2 年半ほど離婚成立まで時間はかかりましたが、私の人生は 2005 年秋にリセットされました。とにかく母子家庭につきまとうネガティブなイメージとは無縁の逆転勝利的な人生にするにはどうしたらよいのか真剣に考えました。「絶対に幸せになったる！絶対に勝ち組になったる！」と思いました。そこで、自分の持っているものは何かと考えるとやはり英語だということに行き着きました。しかし英語が出来る人は世の中にいくらでもいらっしゃいますので、通訳や翻訳の仕事に就くことが厳しいのは重々承知でした。英語になにかプラスする専門的なものがあれば、1 足す 1 が 2 になるのではなく、3 なり 4 なり 10 になるかもしれないと考えました。結婚前はキャリアを考えず資格試験を受けてみたりしましたけれど、女性でも一生食べていくのに困らない、また、どんどんキャリアアップしていけるような、かつ、どこの会社にもある仕事というポイントに絞って考えました。そして、経理・財務がない会社はない！という考えに行き着きました。また、偶然にも金融コンサルに携わる友人から国際的な会計基準への流れを聞いたこともあり、会計を英語で勉強する U.S.CPA という資格が正に当時の私にぴったりだ、とこの資格にたどり着きました。

とはいえ、学習を始めるにあたり迷いや不安もありました。経験＝キャリアというのが会計の世界での常識の中、大学の専攻も会計とは全く関係ありませんでしたし、実務経験もゼロでしたから、まずゼロを 1 にすることが先決だと思いました。そこで、経理経験初心者歓迎というキーワードを基にして、まず簿記 2 級を独学で取得し、何でもやりますという気概を持って仕事を探し始めました。そして、別居して半年、大阪の専門商社で経理財務のお仕事をいただき、実務経験を積んでいく土台を築くことができました。つまり、実務経験を持つことにより、確実に資格を活かすための保証がとれたわけですから、迷いなく、思いっきり勉強にうちこむ体勢ができ、学習を開始させることができました。こうして 1 年 11 ヶ月後の 2008 年 5 月に全科目合格することになりました。

土日集中型で学習し、1年11ヵ月で合格

ここで、U.S.CPA の試験について少しお話をさせて頂きたいと思います。ご存知の方もいらっしゃると思いますが、米国の資格ですから原則米国まで行って受験しなければなりません。が、来年から制度が大きく変わり日本で受験することも可能となりますので、これから受験者数もぐんと増えるのではないかと思います。米国の資格ですので、州単位で受験資格が異なります。単位で縛りがあつたり、大学卒業、短大卒業、皆さんの学歴、職歴でそれぞれ縛りがあつたりしますので、資格を取得した後にどんな仕事をしたいのか、ライセンスを持って会計士としての監査をしたいのか、それとも企業の中で働くのか、という様々な観点から自分の受験する州を選択します。私は会計と全く関係のない学部を大学で専攻しておりました上、会計に関する実務経験もなかったため、とにかく早く合格するために一日でも早く受験したいと思ってから、当時1番要件の軽かったアラスカ州で受験することにしました。U.S.CPA 試験は、1度に全4科目合格する必要はありません。ただし1科目合格すると、残りの3科目は、そこから1年半の間に合格しなければならないという制限があります。1度に全4科目勉強しなければならないというプレッシャーはありませんから挑戦しやすい資格だと思います。また米国本国に行かなければ受験出来ないという制限がありましたが、日本でも受験できるようになりますから、さらに受験しやすくなると思います。私の場合は、受験が外国に行く良い口実になり、仕事と勉強だけの生活からの唯一の息抜きになりました。とにかく最短で合格させるためには、一科目ずつ確実に合格するのが早道だと考え、計4回渡米し受験しました。仕事との両立の中、休みを取ることが難しく、米国滞在時間22時間なんていうこともありましたが、1度だけ息子を一緒に連れていくことができたのは良い思い出になったと思っています。

仕事をしながらの受験生活でしたから、仕事も手を抜けませんし、子供もいますから、平日は勉強しないと決めました。その代わり土日集中型、朝起きてからすぐに勉強をはじめ1日約12~14時間は勉強する生活を1年11ヶ月続けました。いつまでもそんな生活は続きませんから絶対1度で受かってやるというプレッシャーを自分にかけてながら受験に臨みました。モチベーションを維持するために、TACの受講料はエンゲージリングの売却代金で払い、くじけそうなどときには思い出したくない人の顔を思い浮かべ、負けるもんか、絶対最後は笑ってやる、と歯を食いしばって頑張りました。結構良いアイデアだったと思います。

また、この資格試験特有の問題点ですが、米国の資格ということで日本の行政のようにきっちりしていませんから、受験手続きにトラブルは付きものです。私の場合1番最初に出した願書を無くされました。FedExはちゃんと受け取っていると証明が出ているのに、事務局には受け取っていないと言われまして、もう1回提出する羽目になりました。その時はTACのスタッフの皆様に対応して頂きまして、お陰様で予定通り受験することができました。受験手続きにもかなりのストレスを感じますが、もう1つは私の個人的な事情ですが、2科目を合格した時点でやっと離婚が成立したので名前を変えようと思ったところ、米国ですから名前を変えると合格履歴が消えてしまう可能性も無きにしも非ず、と思い、パスポートとIDに必要なカードだけは最後まで名前を変えることができなかつたこと、それも結構なストレスでした。

合格後の私

資格取得後に何が変わったかといいますと、最初に就職した専門商社では昇級もアップし、海外子会社の担当になり、海外出張も多くなったりして、それなりに高い評価を頂きました。しかし、非上場の企業でしたので、もっと会計の実務経験をきちんと積みたい、もっとグローバルな仕事をしたい、また、どこの企業でも通じるようなキャリアを積んでいきたいというような、まだまだチャレンジできるという欲が出てきて、転職を思い立ち、現在の会社に入りました。資格を取ったことで自分のキャリアパスが明確になり 5 年後 10 年後どういう風になっていたいか、今の自分には何が不足しているのかということに常に意識し、そのために迅速に行動することが出来るようになり、迷いが無くなりました。しかし、資格の上にあぐらをかくことなく、資格をとったところから勝負だということはいつも心に留めています。世の中は常に動いておりますし、会社によって自分に求められているものも異なります。ただし、やはり資格は女性にとって大きな武器になりますし、ものの見方が変わりポジティブな思考ができるようになりました。

始めるのに遅すぎることはない

最後のメッセージとして皆様にお伝えしたいことは、たとえ未経験の分野であったとしても始めるのに遅すぎることはないということです。始めようと思ったことはすぐに始めましょう。明日からではなく今日から始め、また始めると決めたからには、最後まで頑張りましょう。そして人より遅く始めるということについては発想の転換でメリットにしましょう。1 位でタスキもらったマラソンのランナーが 2 位のランナーと差を抜ける姿と 1 番最後にタスキもらったランナーが前にいるランナーを追いかける姿では後者のほうが絶対にインパクトがあります。同じスピードで走ったとしても後から走っている人の方が圧倒的に目立ちます。スタートが遅かったということは必ずしもデメリットではありません。そこからいくらかでもキャリアを積むことができます。苦しい時、困難な状況こそがチャンスです。上手くいっている時、人は何も考えないし学びません。困難な状況からは学ぶことがたくさんあります。こういう考え方をしていると何があってもそれほど落ち込まないし、それをバネにしてポジティブに生きることができます。転んでもただでは起きないというのが私のモットーで、辛いことがあっても最後には絶対「笑い」にして楽しく明るく生きるというのが私の人生です。日本の社会はまだまだ女性にとっては、特に年齢が高くなるほど厳しいように感じます。1 人でも多くの女性が自分の意志で自分の人生の舵をきっていけるように、そしていきいきと活躍する女性がどんどん増えていくことを願っています。

★質疑応答★**Q1：U.S.CPA という資格は地方でも活かすことはできますか？**

私は奈良から大阪に1時間ほどかけて通っています。関西と関東を比べてみると、外資系企業やUS.GAAPを使っている企業の数は1対20ぐらい違いがあると聞きました。US.CPAを取得し就職活動をしている時に、東京に行けばサラリーもぐんとあがりますし、チャンスもいっぱいあると言われましたが、私には家族もありますし子供の面倒を見てくれる親と一緒に東京につれていくわけにもいきませんから、やはりここで働くしかないと思って探し、実際に関西で職を見つけました。スポットで探せば外資系の企業や工場がちょっと離れたところにあり、まったく無いというわけではありません。相対的な数は東京の方が多いは勿論ですが、要はスポットにはまれにばよいわけですから、可能性は十分にあると思います。

Q2：再婚を考えていらっしゃいますか？

もちろん考えていますが、結婚前と今とはかなり考え方が違います。結婚する前は結婚＝ゴールでしたが、今は私に合う人を私が探し、お互いに良いと思えば結婚もいいかなと思っています。

Q3：日本の会計事務所ではIFRSにどのくらい対応していますか？

IFRSの対応状況は会社によってぜんぜん違います。現在勤めている会社はまだ対応できていませんが、再来月に転職する予定の企業ではUS.GAAPを使っていますので、IFRSが導入されたとしてもすることはほとんど無いだろうといわれています。IFRSの基準に関してはまだ流動的な項目もたくさんあり、今後どのような状況になっていくかは手探りの状態です。今何が出来るかといいますと、決まっていることについてのインパクト分析です。できることから対応していこうということで一番多くされているのが決算期の統一です。私たちも常に新しいことを勉強していかなければいけないのですが、上場会社でしたら四半期毎に決算が来ますし、なかなか追いついていけないというのが現実ですが、平行してConvergenceも進んでいますから、その都度対応して行くとConvergenceが終わった頃にはIFRSに殆ど対応できていて、もうすることがないくらいになっているのが理想です。新しい基準書が出る毎に取り込んでいくというように現場では対応しております。